



食の未来づくり運動

3.11を忘れない

# 福島のある時、そして今を知る 学習・交流会



学習会・交流会には会場参加の他、オンラインでの参加もありました。

**主催** 東日本大震災3.11を忘れない作業チーム

**開催** 2026年2月21日 **会場** 一般社団法人東京都農業会館会議室

東日本大震災から15年となる今年、語り部の方々を東京にお招きして、学習・交流会を開催しました。みやぎ生協・コープふくしま 福島県本部の皆さまにご協力いただき「東日本大震災支援募金」を活用して実施した企画です。

福島県飯館村住民の佐々木千栄子さん、佐藤美喜子さんのお二人からは、思い出すのさえつらい体験についてのお話があり、あちこちからはなをすすめる音が聞こえました。

交流会では大きな輪になり、中央に登壇者が入りました。

「お互い顔が見えるっていいですね。いつもよりたくさん手が挙がっていたみたい」と好評でした。



行動目標 1 食料自給率の向上

行動目標 2 日本の農業を元気に

行動目標 3 持続可能な社会に向けて

1人から地域で「食の未来づくり運動」を伝え、その輪を広げよう



尖戸義広さん  
(みやぎ生協・コープふくしま 福島県本部 長補佐)

「高齢者は住み慣れた地に戻りたいが、若い人たちは避難先で職を得て定住志向に。家族の分断が起こっています」



佐々木千栄子さん  
(飯館村農家レストラン「氣まぐれ茶屋ちえこ」店主)  
ご自身ががんを患い、その回復途上で起きた3.11。借り上げ住宅での夫の病氣と死、ご自身の希死念慮、帰村して長男と店を再開して見舞われたコロナ禍、長男の死…。つらい内容をお話いただきました。

佐藤美喜子さん(飯館村在住の語り部)  
「住民6,000人だった飯館村は現在1,500人で高齢者ばかり。6年半離村して生じた距離感は埋まらず、復興したという実感はありません」



語り部の佐藤美喜子さん  
「いっかんば 手作りの「一閑張り」  
(伝統的な漆工芸作品)」



会場をぐるりと囲むようにパネル写真を配置し、福島の3.11から現在に至る軌跡を展示しました。



最後に参加者全員でピース!!!

参加者アンケートより

- 原発事故後のお二人の人生はあまりに過酷で、よく乗り越えてこられたと尊敬の念でいっぱいです。
- 平和な日常となりわいをあつという間に奪った原発をなぜまた稼働させるのか、疑問と怒りが湧いてきます。

今月のつばやき

「長崎じげもん旬青果セット」でおなじみの(農)ながさき南部生産組合が昨年9月に設立50周年を迎えました。雲仙普賢岳からの恵みを受け、季節にあった野菜を生き生きと栽培されている生産者の皆さんと交流する機会に恵まれ、組合員として感謝の思いをお伝えしました。同産地の野菜を、これからもずっと注文していこうと思います。(AK)

お問い合わせ

産地直結ひとすじ。いちばん頼れる生協に。

総合企画室

☎03(5374)4756 月曜～金曜日：午前9時～午後4時

E-mail: kumikatsu@tohto.coop

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸5-4-42 さんぱんすぎセンター2階

